

RRR 文部科学大臣賞(1件)
Reduce Reuse Recycle

文部科学大臣賞
「個人・グループ・学校」分野

受賞者名

学校法人 関西大学

所在地

兵庫県丹波市

受賞テーマ

地域再生・交流拠点としての空き家リノベーションの実践と住民による空き家活用活動

平成 26 年 7 月 29 日に公表された「平成 25 年住宅・土地統計調査(速報集計結果)」(総務省統計局)によると、平成 5 年には 448 万戸であった空き家数は、その後一貫して増え続け、平成 25 年は 820 万戸、空き家率は 13.5%に達している。

一方で、産業廃棄物に占める建設業関係の廃棄物の割合は高く、放置しておけば老朽化が進み取り壊され産業廃棄物となる空き家も今後増加しつづけると考えられる。このような点から空き家の利活用＝空き家リノベーション(Renovation)を実践することは 3R を推進する上で重要な取り組みであるだけでなく、過疎化や高齢化といった地域が抱える課題解決に向けた取り組みとしても重要である。

平成 18 年 10 月、兵庫県丹波市青垣町佐治を舞台に実施された日本建築学会近畿支部設計競技「シナリオ丹波」において、本学建築学科建築環境デザイン研究室の学生グループによる「地域に増え続ける空き家を利活用した大学と地域の協働によるまちづくり」の提案が丹波市長賞を受賞した。これを受けて、平成 19 年度より本学と丹波市が連携協定を締結し、「関わり続けるという定住のカタチ」と「21 世紀の故郷づくり」をテーマに空き家リノベーションを軸とした農山村集落の地域再生に向けた取り組みが始まった。

受賞者の取り組みは、地元大工の指導による学生主体の空き家改修、森林資源の豊富な地域特性を活かした地元産材(杉)の使用による空き家改修、時間をかけながらゆっくりと議論を重ねながら取り組む空き家改修といった手法を用いながら、空き家単体の改修という目的を越え、改修プロセスを通じて地域が抱える様々な課題を顕在化し、大学と地域の協働による「地域再生・交流拠点としての空き家リノベーションの実践」を目的としている。

また、地元主体による継続的な空き家活用を実践するサークル「佐治倶楽部」を立ち上げ、本学が実際に空き家リノベーションにより改修した 2 軒の空き家のうち、「関西大学佐治スタジオ」を大学(都市・学生)と地域との交流拠点(授業・ワークキャンプ等)とコミュニティビジネスの拠点として、「本町の家」をコミュニティビジネスの拠点、地域に滞在する拠点ゲストハウスとして、それぞれ運営、活用を実践している。

以上のように、空き家リノベーションによる若者と地域への教育効果、地域活性化、健全な次世代型まちづくりへの貢献をテーマに、大学と地域が協働し、継続的に空き家改修と空き家活用に取り組んでいる。



▲地元大工の指導を受ける学生



▲改修に取り組む大学生



▲佐治スタジオの外観